

武蔵野大学学術機関リポジトリ Musashino University Academic Institutional Repository

認知行動療法研究所発足に寄せて

著者	小西 聖子
著者（英）	Konishi Takako
雑誌名	武蔵野大学認知行動療法研究誌
号	1
ページ	3-3
発行年	2020-03-01
URL	http://id.nii.ac.jp/1419/00001207/

■ 特別寄稿

認知行動療法研究所発足に寄せて

小西聖子

人間社会研究科長・心理臨床センター長

武蔵野大学では1998年から大学院が設置され、同時に心理臨床センターにおいて心理専門職の養成を行うようになりました。現在まで、心理臨床センターでは20年以上にわたり、臨床心理士の指定大学院となり、現在は公認心理師の資格取得課程も持っています。武蔵野キャンパスから有明キャンパスへの移転を経て、今では、年間1700件以上（2018年）の面接をおこなっており、大人と子どもの両方を対象とし、カウンセリングもプレイセラピーもある多様な心理臨床を行うセンターとなっています。また、心理臨床センターは教育だけでなく、研究や社会貢献もその使命としており、特に犯罪被害者支援やPTSDに関する心理療法などをその得意分野にしてきました。2005年ころからは、PTSDの認知行動療法に関心を向け、米国の研究者と連携しての専門家養成や研究を行っています。

2019年、これらの成果を基盤として、さらに一步を進め、特に本学臨床心理学分野の得意とするPTSDやグリーフに関する認知行動療法の専門的研究所を立ち上げるようになりました。そして研究所長にはグリーフケアや被害者支援の研究を専門とする中島聡美先生を迎えることができました。

現在、PTSDの治療において国際的なガイドラインで、第一に推奨されているのは、いくつかのタイプの認知行動療法であり、科学的に確かな効果があることが分かっています。このような治療法は世界的に認められているものですが、残念ながらその技法を実施出来る心理施設は日本では大変少ないのが現状です。武蔵野大学認知行動療法研究所では、これまでの研究や専門家教育の積み重ねにより、PE, CPT, CGT, TF-CBT, PCITなどのトラウマ、グリーフに対する複数の認知行動療法を臨床レベル、あるいは研究レベルで実施可能になっています。このようなレパートリーを持つ大学研究所はほかになく、日本全国の施設を探しても、1, 2を争うものと言ってよいでしょう。このため、多くのクライアントが、医療機関、研究所、被害者支援施設など、専門機関からの紹介によって来られています。

本学の臨床心理学領域の特色をより強く打ち出した組織である認知行動療法研究所には、先進的な臨床研究、あるいは日本にエビデンスベースの心理療法を普及するための研究、専門家教育の研究など、高度なレベルの研究、教育、臨床、社会貢献が期待されます。トラウマ、グリーフのケアの領域は、現代の社会で要望が高いのに、実際には、専門的領域での本格的なケアがほとんど供給されていない領域だと言えます。武蔵野大学のブランド「世界のしあわせをカタチにする」具体的な行動の一つとして、認知行動療法研究所の成果を示していただけることを期待しています。